

=== 第10回「まちづくり会議」を傍聴して ===

「まちづくり会議」をこれまでも傍聴してきましたが最終的に駅前ロータリーが、どのような結論になるか興味をもって9月13日の会議を傍聴しました。

数日前から「公園化」グループの巻き返しが活発化してきたので、その影響がどの位あるかの成り行きをみるためにも重要であると思っていました。

「交通問題を解決して、駅前ロータリーをどうするか論じなければ、そのデザインが『絵に書いた餅』になってしまう。ロータリーは国立のシンボルで大事にしなければ」と私と全く同じ考えの委員の発言は、私を代弁してくれているように思えました。

最後予想もしなかった篠原会長の無責任発言には憤りを強く感じました。本来中立の立場でなければならぬのに「公園広場をベースにすすめる第2案を選択しないのであれば責任が持てないので駅周辺まちづくりから離れ辞任する」という幕切れ終了宣言でした。

市長には篠原会長の脅しに負けず、ロータリー機能を残す第1案を選択宣言して篠原会長を辞任させてほしい。

市議会で市長は「ロータリー機能を存続して、大学通り交差点には信号は付けない、増設しない」ということでしたので信じることにします。

中在住 男性 (60代)

「皆さんに意見は聞いてきたが、私自身は2案。それ以外は考えられない。1案では未来に責任が持てないのでこの会議の結論は2案とします。」

“まちづくり会議”会長：篠原先生（東大名誉教授）のこの言葉に私は耳を疑った。

市民の意見を聞いたフリ。結局最後は自分の好みで決めるのか!? “学識経験者”と言われる先生方は市民同士で合意形成を図るのが難しいことに対し、その知恵を絞って多くの市民が納得出来る“まちづくり”を導き出してくれるのではないのか? その為のコンサル集団。その為に莫大なお金を払っているのではないのか?

市長と意見が合わない為、辞任もちらつかせる様子は補助金申請のタイムリミットを控えた行政に対する脅しとも見受けられる。

市長・議会・まちづくり会議・他、全ての市民が一体となった“まちづくり”、「国立らしさ」を共に考え、学識経験者に頼らず、賛成 vs 反対ではない未来に誇れる国立の“まちづくり”を考える“時”ではないだろうか。中在住 女性 (40代)

=== <署名“1万筆”の意味を考える> ===

市民の世論は「国立駅前ロータリー機能維持」 「市民への増税抑える」

「ムダ遣いの大型開発をやめ『市民のためのまちづくり』への転換をめざす署名」が1万人の目標を超えました。「駅前ロータリーの従前通りのロータリー機能維持」を支持する声は非常に多く、市政に大きく影響を与えていることは明らかです。

また、「国保税値上げ幅の低減」「下水道使用料の値上げ延期」など大型開発の対価とされる税金・公共料金値上げに反対する成果へと署名の効果は広がっています。

このような署名の動きと連動し、都市計画道路「3・4・10号線」延長に対して、周辺の病院や住民などから交通事故などへの安全措置や工事の見直しを求める要求が市長に提出されました。

署名“1万筆”によって市民の世論や市政が一步二歩と変化を見せています。今後1万5千筆~2万筆と署名を増やす(=市民の声を結集させる)ことは、大きな意味を持つと言えるでしょう。更なるご協力を宜しくお願いいたします。

これからの国立駅周辺まちづくり

署名1万人を超えて「市民報告集会」

とき：2013年10月6日(日) 午前10時~12時

ところ：さくらホール(商協ビル2階)

皆様のご参加をお待ちしております。